

平成27年度

福祉教育協力学区指定事業活動報告書

地域社会・学校・家庭の協働
— 子どものときから福祉の目を —



社会福祉法人 **茨城県社会福祉協議会**

発刊にあたって



福祉教育協力学区指定事業は、平成17年度まで実施した「児童・生徒のボランティア活動普及事業」を発展させて平成18年度から新たに始まった事業で、今年度で10年目を迎えました。

この事業は、「児童・生徒のボランティア活動普及事業」において学校中心に行われていた福祉教育から、学校を含めた地域社会や家庭が協働して、子どものときからボランティア活動等を通して社会福祉への理解と関心を高め、助け合い活動を育む福祉教育を推進していくことを目的に実施しています。

本事業は、市町村社会福祉協議会を指定し、小学校区または中学校区を単位として、それぞれの地域性を活かしながら地域一体となった福祉教育の活動に取り組んでおります。

今年度は、平成25年度に指定した坂東市と城里町の社会福祉協議会が本年度で指定期間の3年間を終了することから、これまでの福祉教育に対する取り組みをまとめ、広く周知するために、この報告書を発刊することとしました。

この報告書が今後、各地域で取り組まれる福祉教育活動の一助となれば幸いに存じます。

最後になりましたが、本報告書の作成にあたりご協力いただきました坂東市社会福祉協議会並びに城里町社会福祉協議会の担当者、学校の先生方、地区役員の皆様方に厚くお礼申し上げます。

平成28年3月

社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会
会 長 関 正 夫

目 次

- 発刊にあたって・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 福祉教育協力学区指定事業実施要項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3～4
- 活動報告（平成25年度指定社協）
 - ・ 坂東市社会福祉協議会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5～15
 - ・ 城里町社会福祉協議会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16～30

福祉教育協力学区指定事業実施要項

1 目的

地域社会・学校・家庭が協働して、子どものときから社会福祉への理解と関心を高め、助け合い活動を育む福祉教育を推進することを目的とする。

2 実施主体

市町村社会福祉協議会（以下、「市町村社協」という）とする。

3 地域の指定

茨城県社会福祉協議会（以下、「茨城県社協」という）から指定を受けた市町村社協が、小学校区や中学校区など特定の区域を指定する。

4 指定期間

地域の指定は、3ヵ年とする。

5 指定地域が実施する事業

（1）必須事業

- ① 指定当初に、福祉教育推進協議会（以下、「協議会」という）を設置する。なお、協議会の名称は、指定を受けた市町村社協において決定する。
- ② 指定1年目に「ぼうさい探検隊」を実施し、子どもたちが地域の福祉・生活課題に気づき、地域が主体的に課題を解決しようとする意識づけを行う。

（2）選択事業

指定区域内の小・中学校及び高等学校と連携して、次の事業を選択して行う。

- ① ボランティアスクール、福祉体験講座などの啓発活動
- ② 福祉マップづくりなど、地域の点検・調査活動
- ③ 地域社会で生活する高齢者や障がい者等に対するボランティア活動
- ④ 社会福祉施設への訪問、ボランティア活動
- ⑤ 学校における「総合的学習の時間」等との連携事業
- ⑥ 小・中学校及び高等学校を通じた系統的な学習
- ⑦ 未使用教室の活用事業
- ⑧ 家庭、地域社会への広報活動
- ⑨ 指定地域内の相互交流・学習等
- ⑩ 地域内の複数の関係機関・団体との協働活動
- ⑪ その他、目的達成のため、協議会が必要と認める事業

6 協議会

- （1）協議会のメンバーは、市町村社協と福祉教育に関係する機関・団体等から選出する。なお、メンバーは、実施事業や地域の実情を十分考慮し、構成例示を参照して選任する。

【構成例示】

教育委員会、学校、児童館、公民館、学童保育、社会福祉施設、福祉団体、民生委員・児童委員、ボランティア、PTA、子ども会育成会、自治会・町内会、企業、商店会、福祉関係行政等

(2) 協議会の役割

- ① 地域内の福祉・生活課題を把握し、課題に対応する選択事業の企画と実施を行う。
- ② 地区住民の事業への参加を促進する。

7 茨城県社協及び市町村社協の役割

- (1) 茨城県社協から指定を受けた市町村社協は、協議会を設置する。
- (2) 茨城県社協及び市町村社協は、次の事項に連携して取り組み、本事業を円滑に推進する。
 - ① 講座・体験等の講師、助言者の斡旋及び派遣
 - ② 関係機関等との連絡調整
 - ③ 事業・活動に必要な資機材の提供
 - ④ 関係資料の作成及び情報の提供
 - ⑤ 指定地域内の相互交流
 - ⑥ その他、目的達成のために必要な事項
- (3) 茨城県社協は指定事業の実施経費として、予算の範囲内において、実施市町村社協に助成する。

指定市町村社会福祉協議会

期	指定期間(年度)	市町村社協名
第1期	平成18～20年	水戸市 城里町 結城市
第2期	平成19～21年	笠間市 北茨城市 牛久市 利根町
第3期	平成20～22年	茨城町 八千代町
第4期	平成21～23年	大子町 五霞町 美浦村
第5期	平成22～24年	行方市 小美玉市 坂東市
第6期	平成23～25年	震災のため希望なし
第7期	平成24～26年	茨城町
第8期	平成25～27年	坂東市 城里町
第9期	平成26～28年	水戸市 桜川市

【坂東市沓掛小学校区福祉教育推進協議会】

地域と連携した福祉教育



▲ 福祉体験学習（手話入門）



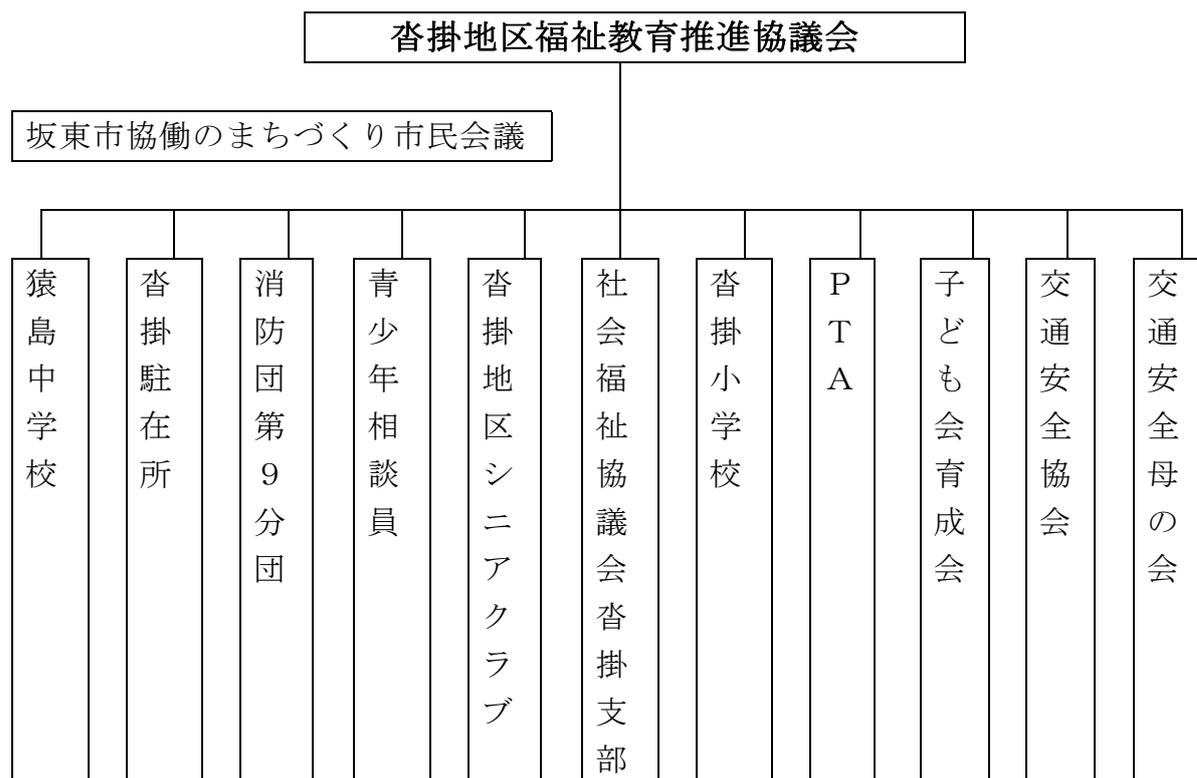
坂東市立沓掛小学校

社会福祉法人 坂東市社会福祉協議会

1 活動目標

- 地域社会・学校・家庭が協働することで絆を深め、自分たちが住む地域が、より安心して暮らせる地域づくりを推進する。
- 子どものときから社会福祉や地域社会への理解と関心を高め、助け合い活動を育む福祉教育を推進する。

2 福祉教育推進協議会組織図



【福祉教育推進協議会】

1	沓掛支部福祉推進員	区長（1名）・民生委員（7名）・前区長（1名）
2	学校	沓掛小学校：2名 ・ 猿島中学校：1名
3	子ども会育成会	沓掛子ども会育成会：2名
4	PTA	沓掛小学校PTA：2名
5	シニクラブ連合会	沓掛地区シニアクラブ：2名
6	消防団	消防団第九分団：2名
7	交通安全母の会	交通安全母の会沓掛地区：2名
8	交通安全協会	坂東猿島支部沓掛分会：2名
9	駐在所	沓掛駐在所：1名
10	青少年相談員	青少年相談員（幹事）：1名

3 実践活動内容

◆ 1年次（平成25年度）

事業内容及び活動内容	
福祉教育推進協議会の設置	<p>小学校区内にある、支部社協、区長会、民生委員児童委員、防犯団体等の関係機関と連携を図り、福祉教育推進協議会（人）を設置。</p> <p>（会議等の状況）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4回開催（事業計画の立案・承認など）延べ93人参加
ぼうさい探検隊の実施 （防災マップ作成）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施日 平成25年11月25日（月） ・ 参加者 350人（児童・保護者・推進員） <p>一斉下校の日に合わせて、小学校区の通学路ごとに危険箇所等を探しながら、防災マップを作成。福祉教育推進協議会を中心に地域住民と全校児童が協力し、下校時間帯に実施した。</p> <p>子どものときから地域住民と共につくる安心なまちづくりの心を養い、福祉に対する関心を高めた。</p>
子どもの見守り隊発足	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施日 平成26年3月14日（金） ・ 参加者 18人 <p>福祉教育推進協議会の推進員を中心とした、「子どもの見守り隊」を立ち上げた。子ども達の通学や下校時に併せて散歩や見回り等を行っていただき、無理のない範囲で子供たちの見回り活動を実施し、防犯活動の啓発に努めた。</p>
地域内の関係機関・団体との協働活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちに対する犯罪被害の未然防止のため、推進員を中心として地域内の複数の団体等が協働してパトロール体制を整備し、子どもの生活ゾーン（学校周辺、通学路、公園などの日常生活において行動する場所）を見守る活動を実施した。 <p>【児童の下校時刻】午後3時（月）午後3時・4時頃（火～金）</p>

◆ 2年次（平成26年度）

事業内容及び活動内容	
福祉教育推進協議会の運営	<p>1年次に設置した福祉教育推進協議会を効果的に運営し、小学校区内にある支部社協、区長会、民生委員児童委員、防犯団体等の関係機関と連携強化を図り事業を展開した。</p> <p>（会議等の状況）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4回開催（事業計画の立案・承認など）延べ74人参加
避難訓練 （不審者侵入想定 の避難訓練）実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施日 平成27年3月2日（月） ・ 場 所 坂東市立沓掛小学校 ・ 参加者 293人（生徒・推進員等） ・ 協 力 スクールサポーター、沓掛地区福祉教育推進協議会 ・ 内 容 学校内の防犯対策の充実強化を図るため、「沓掛地区防犯訓練」を開催。スクールサポーターの協力で、不審者侵入時を想定した避難訓練を行い、全校児童・保護者、地域より293人が参加。防犯対策の充実に向けて有意義な訓練となった。
出前講座：福祉体験 学習の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施日 11月28日（金） ・ 場 所 坂東市立沓掛小学校 ・ 参加者 児童：85人、保護者等：約50人 ・ 内 容 保護者参観日に併せて出前講座として、3学年を対象に手話体験、4学年を対象に点字体験を実施し、保護者を交えての福祉体験学習を実施した。
選択事業 子ども見守り隊活 動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校区内で結成された「子どもの見守り隊」を中心に、年間を通して、登下校時間に併せた立哨補導や地域内パトロールを実施し、子どもの安全に努めた。 ・ 月曜日（一斉下校） 午後3時頃 ・ 火曜日～金曜日 午後3時頃、午後4時頃

◆ 3年次（平成27年度）

実施事業名	内 容
福祉教育推進協議会の運営	<p>福祉教育推進協議会を効果的に運営し、小学校区内にある支部社協、公民館分館、区長会、民生委員児童委員、防犯団体等の関係機関と連携強化を図り、事業を展開した。</p> <p>（会議等の状況）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4回開催（事業計画の立案・承認など） 延べ83人参加
<p>自然災害実験教室（防災訓練）の実施</p> <p>避難訓練、薬物乱用防止教室、防犯パトロール活動の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施日 平成27年10月5日（月） ・ 場 所 坂東市立沓掛小学校 ・ 参加者 277人（生徒・推進員等） ・ 協 力 防災科学技術研究所、沓掛地区福祉教育推進協議会 ・ 内 容 9月の関東・東北豪雨災害を受け、防災に関する知識を深める目的のもと、防災科学技術研究所の「Dr ナダレンジャー」を講師に招き、雪山の雪崩の例や、ビルディングの高さ別の揺れ方など、実際に模型などを利用しながら、子ども達に分かりやすい内容の災害教室を開催した。 ・ 2階脱出訓練や煙体験等、消防署協力の火災想定訓練の実施 ・ 5, 6年対象の県警による薬物乱用の危険性についての講話 ・ 下校時刻における「沓掛地区子どもの見守り隊」活動の実施
<p>選択事業（関係機関・団体との協働活動）</p>	<p>福祉体験学習（沓掛小：年3回実施・合計395人参加）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6月に5学年対象の手話体験、白杖体験の実施、保護者を交えての福祉体験学習実施。10月に「沓小まつり」開催の併せて、保護者を交えての高齢者疑似体験実施。11月「総合的な学習の時間」に3・4年生対象に手話・点字の体験学習を実施した。 <p>体験学習を通して、障がいのある人や高齢者など様々な立場の方への理解や関心を深めると共に思いやりの心を育んだ。</p>

4 主な活動内容

(1) 防災・防犯マップづくり (平成 25 年度)

【概要】

沓掛小学校の全児童（350 人）を対象に、学校関係者・保護者・福祉教育推進協議会（40 人）が連携して一斉下校時に実施。通学路を歩きながら、自分達が住む地域の危険箇所や防災・防犯施設などの設置箇所を見つけ安全マップを作成した。



▲出発前のミーティング



▲探検出発



▲危険箇所等の発見



▲設置箇所の確認



▲設置箇所等の確認



▲地図に危険箇所等をシールで貼り付け

(2) 「子どもの見守り隊」(平成26年度)

【概要】

毎日の登下校時間帯に併せて、散歩をしたり通学路に気を配ったりするなど、負担にならない程度に見守り活動を実施し、不審者や交通事故から子どもたちを守り、安心して通学できる環境を整えた。



▲見守り隊による朝の立哨指導



▲「子どもの見守り隊」発足

(3) 各種避難訓練(平成26年度・平成27年度)

【概要】

日常生活の様々な場面で発生する災害の危険を理解し、安全な行動ができるように日頃から訓練を重ね子どもたちの意識の向上を図った。



▲避難訓練(不審者侵入想定)



▲避難訓練(さすまた使用)



▲交通安全教室



▲交通安全教室



▲避難訓練（煙体験）



▲避難訓練（脱出体験）

（4）各種福祉体験学習

【概要】

各種福祉体験学習を通して、障がいのある人や高齢者など様々な立場の方に対して、理解や関心を深めると共に思いやりの心を育んだ。



▲手話講座



▲手話講座



▲点字講座



▲点字講座

5 市町村社協主催等の福祉教育

(1) 市・町村社協主催の活動

○ 傾聴ボランティア養成講座

(ボランティアに対する関心や理解を深める為、入門講座を開催)

○ 手話奉仕員養成講座

(聴覚障害の福祉の増進を図るため、手話奉仕員養成講座を開催)

(2) 社協と学校・地域等が連携した活動(事業)について

○ ボランティア協力校指定事業

(市内小中学校の児童を対象として、ボランティア協力校として5校を指定し、幅広く福祉教育・学習の機会を提供)

○ 出前福祉体験学習

(学校からのニーズに即した内容の出前福祉体験学習の機会を提供)

○ お年寄りと子供の交流会事業

(そば打ち体験をとおして、高齢者と子どものふれあい体験学習の機会を提供)



▲出前福祉体験学習



▲そば打ち交流会事業

6 様々な福祉体験・学習活動として

(1) 協力学区事業全体（3年間）を通じた感想

- ① 小学校の行事を中心に住民同士の交流が生まれ、皆が協力することで、子どもたちと地域の方々との絆が深まった。
- ② 福祉体験学習の実施と福祉活動の啓発をとおして、家族や地域の人たちに対して、感謝の心や思いやりの心が育まれた。

(2) 「指定3年を迎えて」

沓掛地区福祉教育推進協議会
会 長 田 中 芳 文

指定2年目に「子どもの見守り隊」を発足し、「地域への恩返し」のつもりで、毎日朝の登校時に立哨指導を実施している。

子どもたちの安全を守ることはもちろんのこと、未来を背負ってすくすくと成長していく姿に夢を託して「おはよう」「今日も元気か」「がんばれよ」等、声かけやハイタッチをして励ましている。朝の通勤時間帯とも重なり、顔なじみのドライバーも増え、手を振ってあいさつを交わしてくれる。「たかが30分、されど30分」のドラマが毎朝展開されている。

指定3年目を迎える今年度に孫が入学し、4年後には下の妹も入学する。これからは体力が続く限り、子どもたちの安全を守る活動を継続させるつもりである。

(3) 市・町村社協主催・連携して行った事業等の感想

「避難訓練：煙体験を行って」

沓 掛 小 学 校
6 年 高 橋 瑞 夏

私は、学校で煙体験を行いました。煙体験の前に、猿島消防署の方から火災時の煙の恐ろしさについて説明がありました。説明を聞いて2つのことが分かりました。

1つは、煙が発生すると急激に酸素が減るということです。煙を吸うと手足がしびれ、思うように動けなくなってしまうということが分かりました。2つ目は煙の中を避難する方法が分かりました。煙の中を逃げなければならない時は、姿勢を低くして、壁に沿って逃げるとよいことが分かりました。

実際に火事が起きた場合は、周りの状況をよく見て落ち着いて避難したいです。

また、煙を吸わないように、ハンカチで口を覆って避難したいです。大切な命を自分でしっかり守りたいです。

「登下校の見守り活動をしている方へ」

杳掛小学校

6年 張替美咲

私の学校の周りには、車の通りの激しい所や道幅が狭い所があります。そんな場所に、毎朝、地域の方がボランティアとして立ってくださいます。いつも「おはようございます。」と挨拶をすると、元気なあいさつを返してくれます。

寒い中でも、地域の方やお父さん、お母さんが私たちの登校の様子を見守ってくれるので、安全に登校できます。

私は、計画委員として、あいさつ運動を行っています。以前は「おはよう」と声をかけても、あいさつを返してくれる人が少なかったり、小さな声だったりしていました。

しかし、最近ではみんなのあいさつの声が大きくなってきました。残り少ない小学校生活ですが、私は校内のみんなの元気なあいさつの声が、広がるように頑張っていきたいと思います。

7 成果と今後の課題（3年間の事業をとおして）

（1）事業の成果

地域社会、学校、家庭が協働して、取り組むという意識が以前より高まってきた点が特筆すべき点である。地域福祉への意識付けに対して、子どもたちの変革はもちろんのこと、大人の方についても形に現れてきた。

（2）今後の課題（これからの取り組み）

今後も、特に独居高齢者や高齢者世帯への見守りや声掛け活動を地域にどのように根付かせていくか、さらには災害時における避難活動等の定着など、大きな課題に向けて取り組みを継続させていく必要がある。

本事業で培った地域の方々や学校とのつながりを大切に、今後も地域の福祉活動を継続的に実施し、地域全体での福祉教育の実践・意識の向上にむけた取り組みを行い、より安心・安全なまちづくりを目指していきたい。

【 城里町 沢山小学校区 】

地域と共に進める福祉教育

—福祉教育協力学区指定事業 3年間の取り組み—



【城里町立沢山小学校】



【三世代でボール運び】



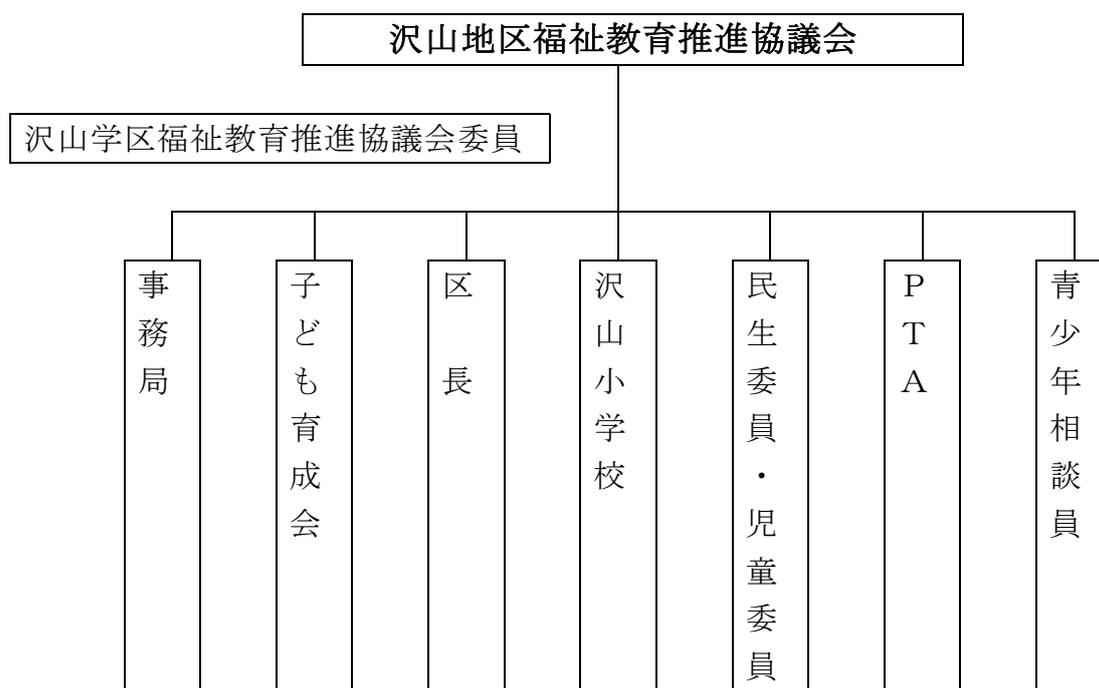
【アイマスク体験】

社会福祉法人 城里町社会福祉協議会

1 活動の目標

- 地域と連携した防災事業を展開することにより，安全な町づくりに参画すると共に学校・保護者・地域と協働する関係を構築する。
- 様々な社会福祉体験を通して，児童の社会福祉への理解と関心を高め，より良い社会のために貢献することの大切さを学ぶ。

2 福祉教育推進協議会組織表



「沢山学区福祉教育推進協議会」委員

1	区 長	沢山小学校区内6地区区長
2	学 校	沢山小学校長，教頭，教務主任
3	子ども育成会	沢山小学校区内子ども育成会正副会長
4	民生委員・児童委員	沢山小学校区内民生委員・児童委員
5	青少年相談員	青少年相談員
6	P T A	沢山小P T A会長・副会長
7	事務局	城里町社会福祉協議会担当者

3 実践活動の内容

◆ 1年次（平成25年度）

実施事業名	内 容
福祉教育推進協議会の設置	<ul style="list-style-type: none"> ○ 城里町立沢山小学校区に「沢山学区福祉教育推進協議会」を設置，城里町立沢山小学校区に福祉教育推進協議会を設置した。名称を沢山学区福祉教育推進協議会とした。（平成25年6月21日） 構成員は，沢山小学校区内6地区区長，民生委員・児童委員，主任児童委員，青少年相談員，各地区子ども会育成会長，沢山小PTA会長・副会長，沢山小学校長，教頭，教務主任とした。
ぼうさい探検隊の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第1回沢山学区福祉教育推進協議会（平成25年7月5日） 「ぼうさい探検隊」実施計画立案 ○ 第2回沢山学区福祉教育推進協議会（平成25年9月13日） 「ぼうさい探検隊」事前打ち合わせ ○ 「ぼうさい探検隊」実施（平成25年10月12日） 6つの地区ごとに児童，保護者，地域住民が学区内を探検し，防災，防犯，交通安全等の危険箇所を発見し，白地図に記入。 ○ 地区ごとの防災マップ作成（平成25年10月23日～11月14日） 沢山小学校において，地区ごとの防災マップを児童が作成。 ○ 学区全体の防災マップの作成（平成26年2月26日） 地区ごとの防災マップを一つにまとめた学区全体の防災マップが完成(300部作成)。各児童家庭，地域，関係者に配付した。 ○ 活動報告（平成26年2月27日） 沢山小学校行事「めざす児童像達成集会」において，「ぼうさい探検隊」の活動報告を代表児童が行った。
（選択事業） ① 学校における総合的な学習の時間との連携事業 ② 地域内の複数の関係機関・団体との協働活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 福祉体験学習の実施（平成25年10月31日） 「親子で聴く音楽鑑賞会」を実施 視覚障害者の村上守・真理子夫妻によるギターとフルートの演奏と講話，盲導犬ユズも来校。 児童116名及び保護者21名参加 ○ 手話，車いす，アイマスク体験（3・4年生） （平成26年1月24日） 城里町社会福祉協議会の登録ボランティアサークルが来校。 ○ 栽培活動の実施 栽培した草花の苗を町図書館，民間福祉施設等に届けた。 ○ 「ぼうさい探検隊」への参加協力 青少年健全育成沢山学区会議や「沢山学区子どもの安全見守り隊」と連携した活動の実施

◆ 2年次（平成26年度）

実施事業名	内 容
福祉教育推進協議会の設置	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成26年度沢山学区福祉教育推進協議会 平成25年度に設立した「沢山学区福祉教育推進協議会」を26年6月20日に開催し、活動内容の確認、課題と改善について協議した。 (平成26年6月20日)
ぼうさい探検隊の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「ぼうさい探検隊」の実施（平成26年4月14日） 通学班ごとに児童，保護者，地域住民が学区内を平成25年度の調査結果をもとに実踏調査した。 ○ 防災マップの改訂作業（平成27年1月22日～） 沢山小学校において，これまでの各種調査をもとに地区(通学班単位)ごとに，平成25年度版防災マップに加除訂正を行い，平成26年度版の学区全体の防災マップを作成した。 ○ 防災マップ平成26年度版が完成（平成27年2月26日） 学区全体の防災マップ平成26年度版が完成(120部作成)。各児童の家庭，地域，関係者に配付した。 ○ 「ぼうさい探検隊」の活動報告（平成27年2月27日） 沢山小学校行事「めざす児童像達成集会」において「ぼうさい探検隊」の活動報告を代表児童が行った。
<p>(選択事業)</p> <p>⑤学校における総合的な学習の時間との連携事業</p> <p>⑨地域内の複数の関係機関・団体との協働活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校区合同引き渡し訓練（平成26年9月2日） 中学校区合同の引き渡し訓練(地震想定)に併せて，災害の種類に対応した避難方法や災害時の簡易テントの設営，備蓄用の水の確認などを行った。 ○ 劇団による福祉学習会（平成27年1月16日） 福祉学習として，劇団「仲間」の団員6名が来校し，協力したり分かり合ったりすることの大切さについて考える「ぼくはアフリカにすむキリンといいます」の劇を上演した。 児童109名，保護者9名，地域の方6名が参加した。 ○ 手話，車いす，アイマスク体験（平成27年1月30日） 城里町社会福祉協議会登録ボランティアサークルの方々(11名)を講師として，手話，車いす，アイマスク体験を3・4年生児童が行った。 ○ 栽培活動（通年） 栽培活動を実施した。児童が栽培した草花の苗を鉢やプランターに移植して，町図書館や民間福祉施設等に届けた。 ○ 「ぼうさい探検隊」へ協力依頼（平成26年6月20日） 沢山学区福祉教育推進協議会が「青少年健全育成沢山学区会議」や「沢山学区子どもの安全見守り隊」に対して「ぼうさい探検隊」の協力を依頼し，連携した活動を実施した。

◆3年次（平成27年度）

実施事業名	内 容
福祉教育推進協議会の設置	<ul style="list-style-type: none"> ○ 福祉教育推進協議会の設置（平成25年6月21日） 城里町沢山小学校区に沢山学区福祉教育推進協議会を設置。構成員は、沢山小学区内6地区区長，民生委員児童委員，主任児童委員，青少年相談員，各地区子ども会育成会長，沢山小学校PTA会長・副会長，沢山小学校長，教頭，教務主任である。 ○ 「沢山学区福祉教育推進協議会」の開催（平成27年6月19日） 福祉教育推進協議会の活動内容の確認，課題と改善について協議した。
ぼうさい探検隊の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「通学路チェックウォーキング」の実施（平成27年4月13日） 「ぼうさい探検隊」の流れをくんで「通学路チェックウォーキング」を実施した。通学班ごとに児童と「沢山学区子ども安全見守り隊」の方々が通学路の危険箇所等を確認した。 ○ 防災マップ平成27年度版が完成（平成27年12月21日） 「通学路チェックウォーキング」の確認をもとに，学区全体の防災マップの平成27年度版を作成した。（120部） 第1学年の児童家庭，地域，関係者に配付した。
<p>（選択事業）</p> <p>④社会福祉施設の訪問，ボランティア活動</p> <p>⑤学校における「総合的な学習の時間」との連携事業</p> <p>⑨地域内の複数の関係機関・団体との協働活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 老人福祉施設訪問（平成27年9月25日） 学区内の老人福祉施設を訪問し，歌の披露やレクリエーションを行い，交流を深めた。 ○ 中学校区合同引き渡し訓練（平成27年7月13日） 中学校区合同の引き渡し訓練（地震想定）に併せて，災害の種類に対応した避難方法や引き渡し方法，災害時の簡易テントの設営などを行った。 ○ 演劇による福祉学習会（平成28年1月22日） 劇団「らくりん座」による「夏の庭」を上演した。老人と少年たちのふれ合いを描く福祉的な内容を9名の団員に熱演いただいた。児童106名，保護者10名，地域の方10名が参加した。 ○ 手話，車いす，アイマスク体験（平成28年1月27日） 城里町社会福祉協議会登録ボランティアサークルの方々11名が講師となり，手話，車いす，アイマスク体験を3・4年児童が行った。 ○ 盲導犬学習会（平成28年1月28日） 町内在住の盲導犬と暮らす浅見様を講師に，盲導犬とその生活等について学習した。 ○ 栽培活動（通年） 栽培活動を実施した。児童により種から育てた草花の苗を花壇や鉢・プランターに定植した。 ○ 「子ども安全見守り隊集会」の実施（平成27年9月24日） 沢山小学校で「沢山学区子ども安全見守り隊集会」を実施し，学区内の防犯・防災等について警察の方を招き研修を行った。集会後，見守り隊は児童と下校し，通学路の安全を確認した。

4 主な活動事例紹介

◆【必須事業】

(1) ぼうさい探検隊（1年目：平成25年度） ※平成26, 27年度も継続

① 沢山小学校区について

沢山小学校は、城里町北部にある国道123号線沿いの小規模校である。すぐ側を那珂川が流れ、木々の緑や水田・畑地が広がる豊かな自然に恵まれた地域である。

沢山小学校では、児童の豊かな心を育てるため、地域の人との関わりを大切にしながら様々な教育活動を実践している。また、地域を素材とした学習や行事には、多くの地域の方の協力を得ている。

単学級で学級内の人数も少ない為、教科領域など学校生活全体を通して、1～6年生の縦割り班活動や低・中・高学年ブロック活動も多く計画されている。

沢山小学校区は、阿波山1区、阿波山2区、高根区、下阿野沢区、上阿野沢区、御前山区の6地区であり、「ぼうさい探検隊」は各地区区長を中心に地区ごとに進めていった。



② 「ぼうさい探検隊」事前学習

(平成25年10月11日)

「ぼうさい探検隊」の前日に、次の探検隊活動手順を指導・確認した。

- ・防災に関する基礎知識の学習
- ・さわやま学区各地区の地図及び探検経路の確認
- ・危険箇所等の記入の仕方、記録のとり方
- ・探検後のマップづくりの方法
- ・その他（諸注意）



〔事前学習〕

③ 「ぼうさい探検隊」活動（平成25年10月12日）

保護者の参加しやすい土曜日を活用し、「ぼうさい探検隊」を実施した。保護者、地域の住民、児童が自分たちの住む地域を一緒に歩き、防災、防犯の設備・危険箇所等を発見・記録していった。全校児童116名、保護者・地域住民72名が参加した。



〔ぼうさい探検隊〕



〔ぼうさい探検隊〕

④ 「防災マップ」作成（平成 25 年 10 月 12 日）

「ぼうさい探検隊」終了後、各地区コミュニティーセンターで「防災マップ」を作成し、地域の防災意識を高めた。

各地区でまとめられた「防災マップ」は、情報を一つのまとめ、沢山小学校区の「防災マップ」として統合し、全家庭に配付した。



〔各地区での防災安全マップ作り〕



〔各地区での防災安全マップ作り〕



〔児童の手による防災マップ〕



〔統合された沢山学区の防災マップ〕

(2) 平成 26 年度、27 年度の「ぼうさい探検隊」及び「防災マップ」づくり

○ 平成 26 年度

「ぼうさい探検隊」を 4 月に実施し、「防災マップ」の改訂作業を行った。

○ 平成 27 年度

「ぼうさい探検隊」の流れをくんだ「通学路チェックウォーキング」を実施し、通学班ごとに児童と「子ども安全見守り隊」の方々が通学路の危険箇所等を確認した。「通学路チェックウォーキング」をもとに、平成 27 年度版の「防災マップ」を作成した。



〔通学路チェックウォーキング事前学習〕



〔通学路チェックウォーキング〕

(3) 「ぼうさい探検隊」の成果と課題

① 成果

○ 「ぼうさい探検隊」により、学区の「防災マップ」づくりを行うことで、児童が自分の学区内を深く知ることができた。

○ 「ぼうさい探検隊」により、地域の方々と関わりながら「防災マップ」を作成したことで地域の方々への親近感と信頼が高まった。また、自分たちの安全は、地域の方々に支えられているという意識を持つことができたと共に、児童の安全への意識が高まった。

② 課題

○ 「ぼうさい探検隊」を無理なく実施するために、児童と職員による「通学路チェックウォーキング」として今後実施していく予定であるが、地域や保護者とのつながりをどのように保っていくか検討が必要である。

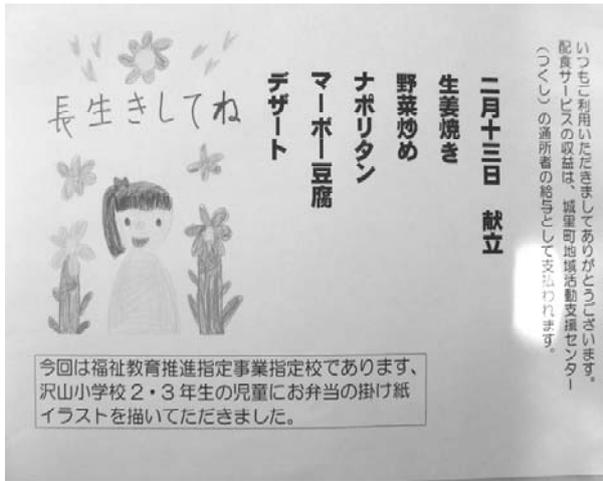
○ 毎年配布する予定の「防災マップ」を今後持続させていくために、資金面の工夫が必要である。

◆【選択事業】

(1) 社会福祉施設への訪問、ボランティア活動

① 弁当の「掛け紙」作成（平成 25 年度）

社会福祉協議会と連携して、一人暮らしのご老人の方々に配付する弁当の「掛け紙」のイラストを作成した。



〔作成した「掛け紙」の一例〕



〔お弁当と笑顔の老人〕

② 老人福祉施設訪問（平成 27 年度）

生活科の地域探検を兼ねて、学区内にある老人福祉施設（カーサビアン城里）で交流会を行った。



〔老人福祉施設で風船遊びの交流〕



〔老人福祉施設で合唱を披露〕

③ 御前山クリーン作戦（平成 25 年度～27 年度）

夏休みに、「緑の少年団」として、御前山をハイキングしながらゴミを拾う「御前山クリーン作戦」を毎年行っている。この活動は、地域の自然を守るために一役かっている。講師には、御前山県立自然公園保護管理協議会より、沢山地区在住の指導員 2 名を招いて実施している。



〔御前山クリーン作戦〕



地域指導員「君嶋さんと関口さん」の話

(2) 学校における総合的な学習の時間との連携事業

① 中学校区合同引き渡し訓練

(平成26年度, 平成27年度)

緊急時の備えとして, 家族の動きを想定し, 中学校及び中学校区の小学校と連携した「合同引き渡し訓練」を行った。

特に, 兄弟・姉妹のいる家庭には, 引き渡しの手順などを確認することができ有意義な訓練となった。

災害時の様々な非難の仕方や簡易テントを設営しての活用など実践的に体験した。



〔小・中連携の引き渡し訓練〕

② 親子で聴く音楽鑑賞会(平成25年度)

視覚障害者の村上守・真理子夫妻によるギターとフルートの演奏を鑑賞し, 日々の生活や福祉についての講話をいただいた。盲導犬ユズも来校した。児童116名, 保護者21名参加した。



音楽鑑賞会 (来校してくれた村上夫妻)



〔音楽鑑賞会 (ギターとフルート)〕

③ 演劇による福祉学習会 (平成26年度, 27年度)

平成26年度には, 劇団「仲間」の団員6名が来校し, 共に協力したり, 分かりあったりすることの大切さを教える劇「ぼくはアフリカにすむキリンといいます」を上演した。児童109名, 保護者9名, 地域の方6名が参加した。



〔演劇鑑賞会の事前ワークショップ〕



演劇鑑賞会「ぼくはアフリカにすむ・・・」

平成 27 年度には、劇団「らくりん座」による「夏の庭」を上演した。老人と少年たちのふれ合いを描く福祉的な内容を 9 名の団員に熱演いただいた。

児童 106 名、保護者 10 名、地域の方 10 名が参加した。



〔演劇鑑賞会「開会行事」〕



〔演劇鑑賞会「夏の庭」〕



〔演劇鑑賞会「夏の庭」〕



〔演劇鑑賞会「花束贈呈」〕

④ 手話・車いす・アイマスク体験（平成 25 年度～27 年度）

社会福祉協議会の支援で毎年、手話学習会、車いす・アイマスク体験を実施した。講師には、城里町社会福祉協議会登録のボランティアサークルの方々 11 名が来校した。実際に体験することで、障害のある方々への理解を深めると共に、健康に生活する自分たちの生活を振り返ることができた。



〔手話学習会〕



〔車いす体験〕



〔アイマスク体験〕



〔アイマスク体験〕

⑤ 盲導犬学習会（平成 27 年度）

町内在住の視覚障害者浅見様を講師に招き、盲導犬の役割や盲導犬との生活等について講話をいただいた。おとなしく優しい目をした盲導犬に、児童達は親しみを感じていた。



〔浅見さんの話を聞く子供たち〕



〔盲導犬とふれあう体験〕

⑥ 栽培活動（平成 25 年度～27 年度）

学校緑化の常時活動として、週 1 回の「クリーン大作戦」を実施し、学年花壇の手入れを全校で行っている。種から育てた苗を花壇に植え、水やりや草取りを学級全員で行い、花壇の管理をしている。

平成 25 年度には、学校の近所の商店や施設等にお世話になっているお礼として、花苗を届けた。



〔地域の方へ配付した花苗〕



〔クリーン大作戦での定植作業〕



〔クリーン大作戦での花壇除草作業〕



〔クリーン大作戦での花壇耕耘作業〕

⑦ 農業体験（平成 25 年度～27 年度）

「学校農園」「田植え」「稲刈り」などの農業体験を地域の方々を講師に実施した。農業地帯に生活していながら、農業経験のない児童にとっては、作物を作る苦勞を知る良い経験になった。秋の芋掘りでは、それぞれの班がたくさんの芋を収穫し、“おいもコンテスト”を楽しんだ。その後行われるさつまいもパーティーも児童の楽しみにしている行事となっている。



〔縦割り班でのいもほり体験〕



〔田植え体験〕

⑧ 運動会での高齢者や地域の方々との交流（平成 25 年度～27 年度）

児童も保護者も地域も力を出し切る運動会。地区対抗種目は、地域の団結が強く、職員チームは、とても太刀打ちできないほどです。地域参加の種目には、交流のある施設などからも高齢者の方々が多数参加され、和気藹々としたひとときを過ごしている。また、地区の区長さん方が主催する〇×クイズは、毎年好評である。



〔地区対抗種目「たが回し」〕



〔区長さん主催の「〇×クイズ」〕

⑨ 三世代ふれあい交流会での高齢者や地域の方々との交流(平成25年度～27年度)

三世代ふれあい交流会は、地域の区長・副区長を核とした青少年育成沢山学区会議が中心となり毎年企画・運営されている。この交流会により児童・職員・保護者地域の人たちが楽しくふれあい、交流を深めている。参加者も学齢前の子から高齢者までと幅広く、縦割り班活動・体験活動・地域や学校を題材としたクイズなどがあり、楽しいひとときを過ごすことができる。毎年、子どもたちが心待ちにしている行事の一つであり、離れて住んでいる祖父母が参加する家庭などもあり、参加者の表情は、みな明るい。



〔三世代交流「コマ回し」〕



〔三世代交流「ゲーム」〕



〔三世代交流「輪投げ」〕



〔三世代交流「あやとり」〕

(3) 地域内の複数の関係機関・団体との協働活動

○ 沢山学区子どもの安全見守り隊(平成25年度～平成27年度)

地域の方と児童の家族により、「沢山学区子どもの安全見守り隊」が組織されており、毎日の登下校時に、その名の通り、子どもたちの安全を見守っていただいている。地域の方に見守り関わっていただくことで、安全だけでなく交通マナーやあいさつなども身に付いてきている。

平成27年9月には、「沢山学区子ども安全見守り隊集会」を実施し、地元警察の方を招き、学区内の防犯・防災について研修を行った。集会後、見守り隊は児童と一緒に下校し、通学路の安全を確認した。



〔子どもの安全見守り隊集会〕



〔子どもの安全見守り隊の活動〕

(4) 選択事業における成果と課題

① 成果

- 学校行事や体験学習等において、地域の方との交流は以前からあったが、福祉教育協力学区指定事業を実践していく中で、地域の方からの学校への温かい支援が増えた。
- 福祉教育協力学区指定事業により、福祉体験の充実が図れた結果、児童は高齢者や幼児などに対して自然に関わることができるようになり、思いやりの心などの福祉の心が育ってきている。

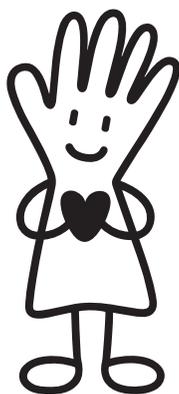
② 課題

- 福祉教育協力学区指定事業により、育まれた思いやりの心など「福祉の心」を学校生活に生かしていく工夫をしていきたい。
- 福祉体験や地域との交流により、児童は、自分の生活している沢山小学校区のよさを知ることができた。これを発展させ、自分たちができることは何かを考え、進んで地域のために行動できる児童の育成に努めたい。

5 3年間の福祉教育協力学区指定事業を終えて

3年間の福祉教育協力学区指定事業は、児童ばかりでなく沢山小学校区全体にとっても大変有意義な事業であった。今年度で終了となるが、継続できる取り組みを精選し、児童の健全育成のために、今後も地域と協力しながら活動していきたい。

茨城県社会福祉協議会及び城里町社会福祉協議会への皆様には、3年間たいへんお世話になりました。深く感謝申し上げます。



はんどちゃん

福祉教育協力学区指定事業活動報告書

第8期指定 平成25年度～平成27年度



社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会

〒310-8586 水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内

TEL：029-241-1133(代) FAX：029-241-1434